

樹木の剪定に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 生垣の刈込みを行う際は、萌芽力が落ちるのを防ぐため、毎年、同じところを刈り込むのがよい。
2. 枝おろしは、徒長枝、立ち枝、逆さ枝など樹形を乱す枝や密生した枝など、さほど太くない枝を間引く剪定である。
3. 落葉樹について、樹枝の骨格をつくるための基本剪定を行う場合は、冬期に行うのがよい。
4. 樹木に対する強剪定は、樹木全体の生長が抑えられ、徒長枝の発生抑制に有効である。
5. 摘心は、樹形維持のために、芽の伸びる方向に注意しながら、伸びすぎた枝の徒長枝が分岐するところで切り縮める作業である。

正答：3

都市公園の計画・設計における次の作業のうち、一般に「基本計画」や「基本設計」段階では行わず、「実施設計」段階で行うことが最も適当なのはどれか。

1. 公園の利用者層を踏まえた需要予測
2. 計画地の立地条件の解析
3. 施設詳細図の作成
4. 概算工事費の算出
5. 管理運営計画の作成